

# 残したい“日本の音風景100選”の概要

## － 残したい“日本の音風景100選”について －

平成8年、環境省（当時環境庁）では、「全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境（音風景）を広く公募し、音環境を保全する上で特に意義があると認められるもの」として「残したい“日本の音風景100選”」を選定しました。（選定方法）

この100選は、日本の音風景の多様性がそのまま反映されたものとなり、自然環境だけではなく、文化や地場産業が形成する音風景も含めた、幅広い内容になりました。その音源も、鳥の声や昆虫の羽音などの＜生き物の音＞から、川の流れや海の波などの＜自然の音＞、祭りや産業などの＜生活文化の音＞まで多岐にわたります。それぞれがその地域固有の、後世に伝えたい大切な音風景です。

「残したい“日本の音風景100選”」についてお気づきの点がございましたら、以下のアドレスまでEメールにて、ご意見をお寄せ下さい。

[oto@env.go.jp](mailto:oto@env.go.jp)（環境省 水・大気環境局 大気生活環境室）

## － 選定方法 －

### 残したい“日本の音風景100選”の選定に当たって

100選の候補として応募された音風景については、「日本の音風景検討会」に選定審査をお願いしました。

同検討会では、応募された全案件について、①公募の基本的要件との整合性、②人との接点、③音の状況、④音環境を保全しようとする取組の状況を評価するとともに、音環境に対する「人々のかかわり」、日本の音風景の「多様性」等の点を特に重視して選定審査が行われました。

（参考）日本の音風景検討会名簿（平成8年選定当時）

座長	山下 充康	（財）小林理学研究所理事長
	岡島 成行	環境ジャーナリストの会会長
	品田 穰	国際武道大学教授
	橘 秀樹	東京大学生産技術研究所教授
	鳥越 けい子	聖心女子大学助教授
	堀 繁	東京大学アジア生物資源環境研究センター教授
	宮川 輝子	静穏権確立をめざすグループ会長
	湯川 れい子	音楽評論家、環境を守る女性の会WOMEN-1000代表
	渡辺 俊雄	NHK編集局副部長